

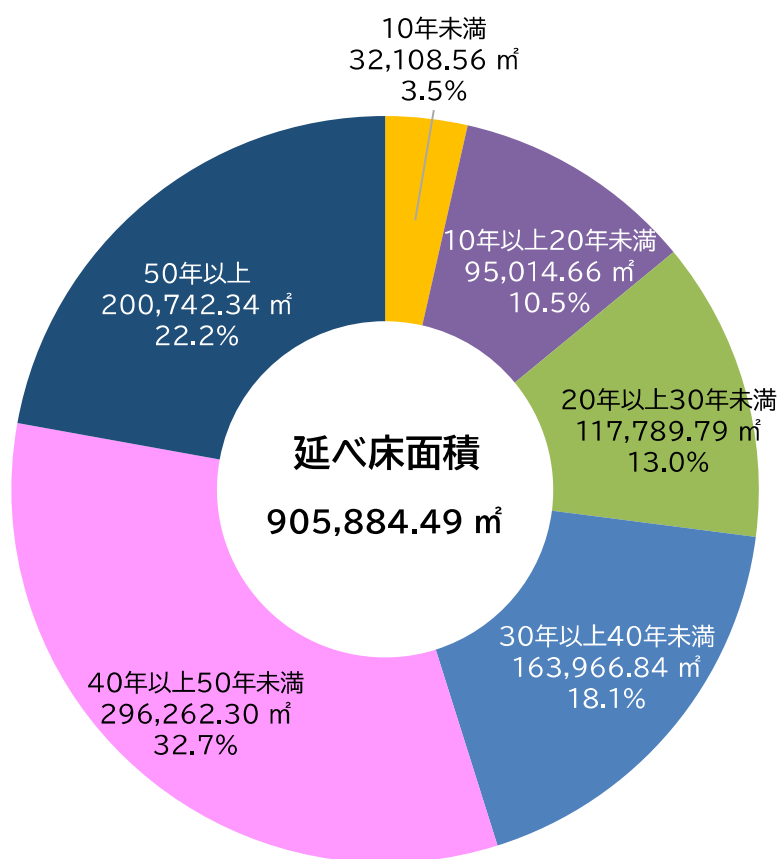
第2章 建物系施設の現状と課題

1. 建物系施設の現状
2. 将来人口の推計
3. 本市の財政状況
4. 建物系施設の現状と今後の見通しを踏まえた課題

1 建物系施設の現状

本市の建物系施設は、人口増加等に伴い順次整備されてきたため、およそ半数が建設後40年以上経過している建物となっています。2025（令和7）年4月1日時点では、建物系施設の延べ床面積が905,884.49㎡となり、建設後50年以上の建物が全体の約22%、40年以上50年未満が約33%になっています。今後10年間で約半分の建物が建設後50年以上となり、施設の老朽化が更に進み更新時期が迫ってきています。

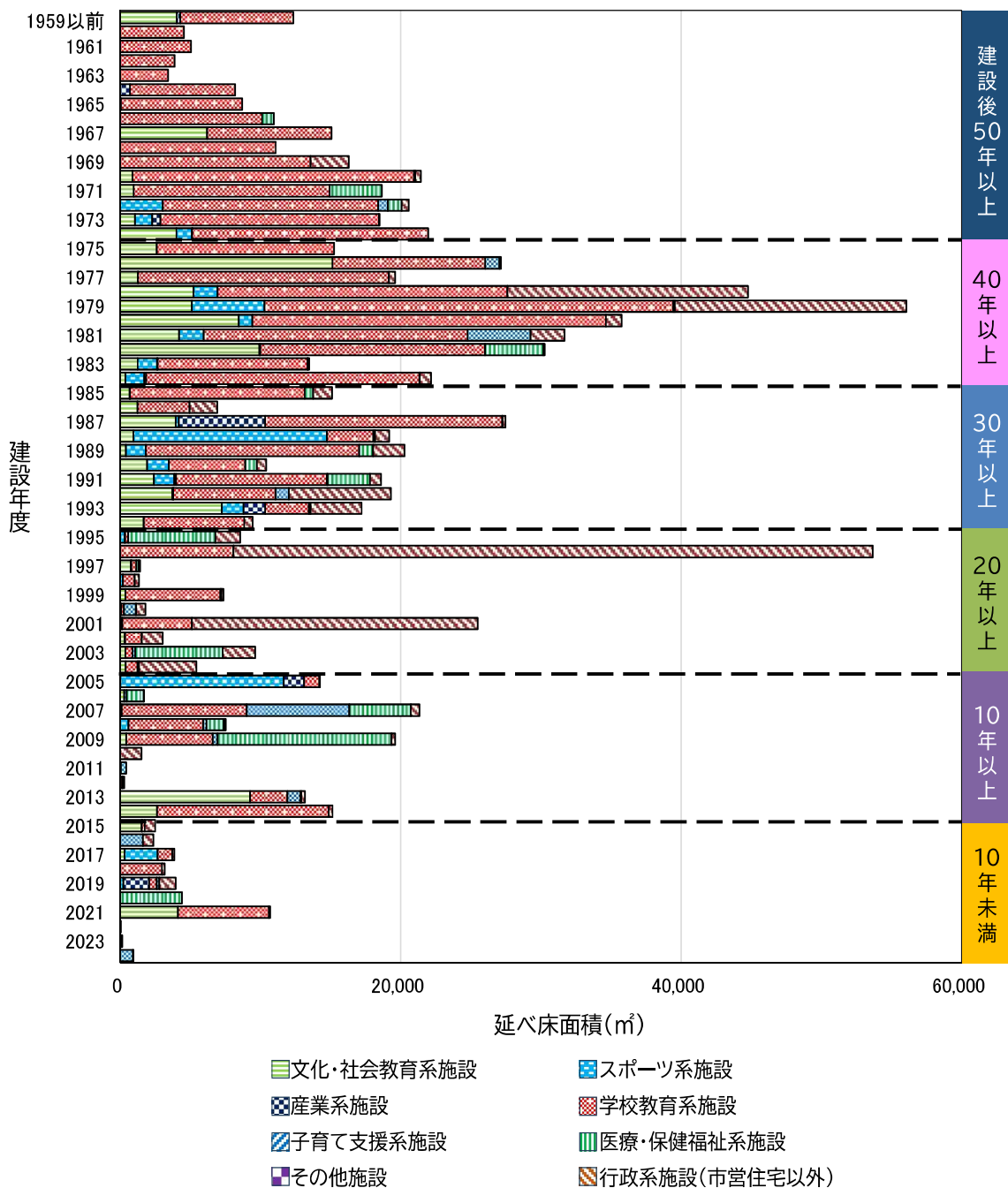
▼建設年度別の延べ床面積割合



2025(令和7)年4月1日時点:公有財産台帳

第2章 建物系施設の現状と課題

▼建設年度別の延べ床面積

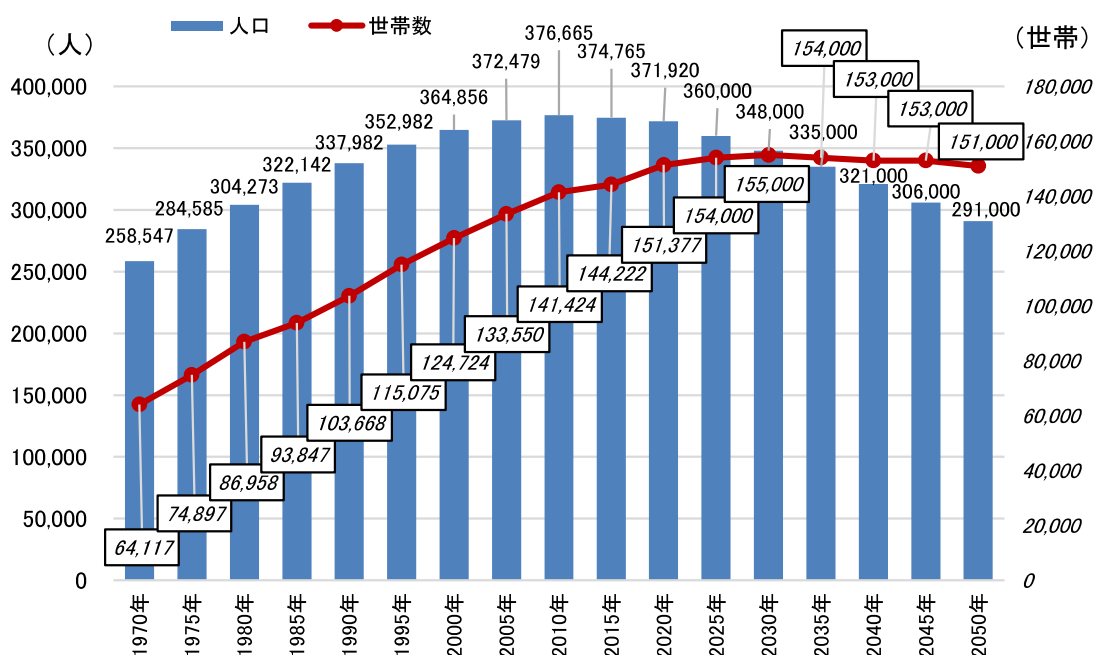


2025(令和7)年4月1日時点:公有財産台帳

2 将来人口の推計

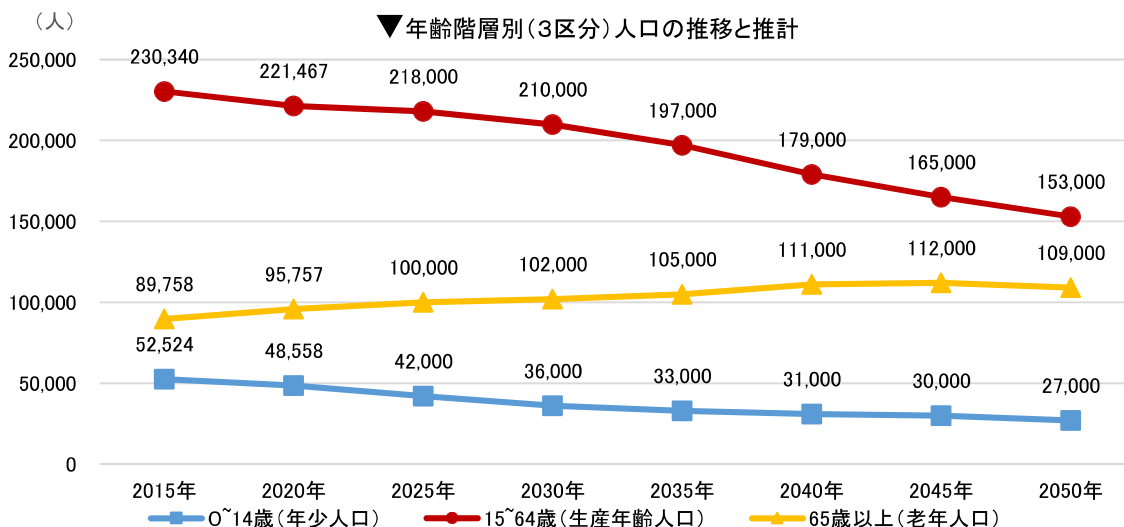
本市の人口は、2010（平成22）年には376,665人に達しましたが、その後は減少に転じており、人口推計においては、2050（令和32）年時点で291,000人になると推計しています。年齢別の人口推計では、老年人口（65歳以上）は2045（令和27）年まで増加傾向を辿り、その後減少する一方で、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向が続く見通しです。

▼人口・世帯数の推移と推計



2020(令和2)年までは国勢調査の実績値。2025(令和7)年以降は第6次豊橋市総合計画後期基本計画の推計値(コーホート要因法)

▼年齢階層別(3区分)人口の推移と推計



2020(令和2)年までは国勢調査の実績値。2025(令和7)年以降は第6次豊橋市総合計画後期基本計画の推計値(コーホート要因法)

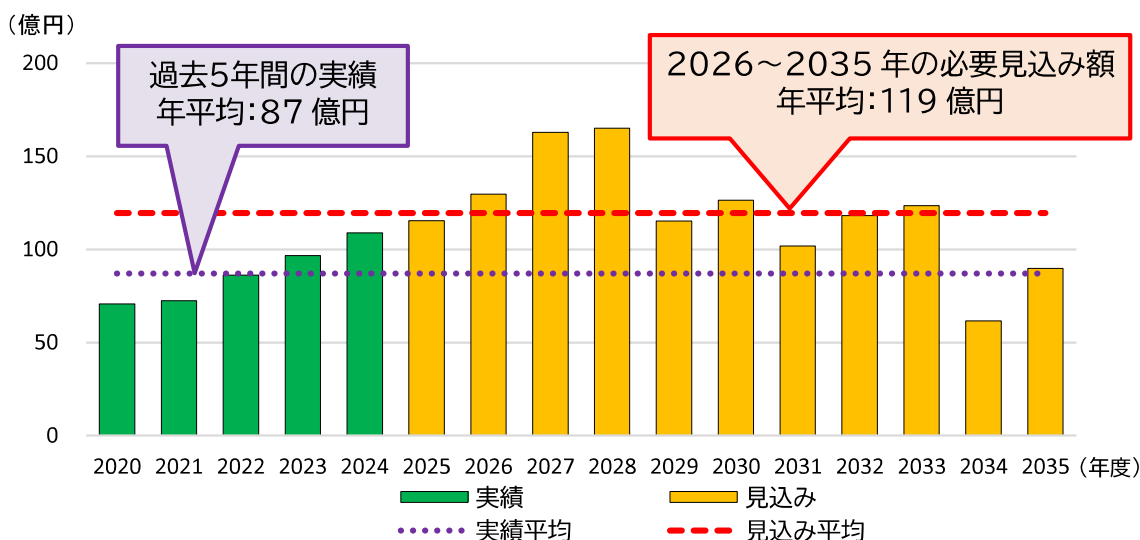
2015(平成27年)、2020(令和2)年は年齢不詳分を加味していないため合計値が人口推計の総数と一致しない

2025(令和7)年以降は端数処理のため3区分の合計値が人口推計の総数と一致しない場合あり

3 本市の財政状況

過去5年間の維持・更新費用の実績は年平均87億円でした。今後10年間で本計画の対象となる建物系施設を長寿命化対策した場合の維持・更新に必要な見込み額は年平均119億円となり、過去の実績と比較して年平均で約1.4倍の費用となる見込みです。

▼長寿命化対策した場合の建物系施設の維持・更新費用の推計(一般会計分)



4 建物系施設の現状と今後の見通しを踏まえた課題

・施設の老朽化

今後10年間で建設後50年以上の建物が約半分となり更新時期が迫っています。

・ニーズの変化

生活環境や利用需要は施設整備当時から変化しています。

・社会構造の変化

更なる人口減少が予測され今の保有量を維持・更新することは後世の負担を増加させることになります。

課題

- ・ 利用需要を考慮した上で保有量を最適化し、財政負担の軽減を図る必要があります。
- ・ 市民ニーズの変化に行政サービスが対応することによって、利便性を維持した施設管理・運営を行う必要があります。